

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0372700617
法人名	有限会社 介護ひがしやま
事業所名	グループホーム にこにこひがしやま
所在地	一関市東山町長坂字北磐井里187-3 (電話) 0191-35-3368

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	盛岡市本町通3丁目19番1号		
訪問調査日	平成20年7月15日	評価確定日	平成20年9月25日

## 【情報提供票より】(20年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 18 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤	人, 常勤換算 15 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	180,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	10 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立大東病院、岩手県立千厩病院、岩手県立磐井病院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が高齢化しているが、心身機能の維持、向上が図れるようできるだけ出来ることは自分でやってもらうようにしている。小さな田んぼ、多種の野菜づくりを行い、土に親しむようにしている。また、地域活動として小学校の下校時に2人で立って2週間、小学校の見守り隊を行った。職務を果たした満足感がある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度は特に改善項目は無かったが、常に見直しや改善の工夫がなされている。利用者から常に見えるような畑を増やした他、利用者の機能が低下し、立ち上がれなくなってくるため、レイアウトの変更を行うなどした。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	常に話し合いを持ち、自己評価は勿論のこと、評価の仕方や意義も説明されて
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族会アンケートを行い、その内容に沿って検討し、実行している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情について話し合いを持ち、前向きな対応がなされている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の見守り隊、草刈り等へ参加されているほか、夏まつりの主催を通じて地域との連携を図っている。また、認知症について地域での学習会を行い、地域で支えあえるよう取り組みが行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年、見直しが行われており、職員全員で話しあい、20年5月14日の推進会議でまとめた。また、毎月1日老人クラブ等へ出かけて認知症等の話をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りのつど、理念の唱和をしており、理念の内容を具体化している。また、毎年、理念の見直しをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	草刈り、小学校の下校時の見守り隊、老人クラブ長生会定例会、地域での認知症の学習会などに参加した記録が「地域交流記録表」で確認できた。平成20年8月9日夏まつり開催予定(19年には地域の方々が150名ぐらい参加した)。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行った。例として、利用者間のトラブルをふせぐため、テーブル・イスの配置を考慮している。また、職員の自己評価表があり、1年に2回、自分で振り返ってもらっている。具体的には「業績評価表」で半年毎に自己評価、一次評価の評価点とランクが記入されていることを確認した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回目の会議で利用者アンケートをとり、2回目の会議で内容を検討している。アンケートを基に改善に取り組んでいる。(議事録3枚を確認。)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「支援相談記録」を確認した。事業所だけでは対応が困難な事例について、民生委員や市職員等交えた話し合いがもたれており、利用者の様々な相談にのっていることが確認できた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「お預り金管理表」の記帳状態を確認した。金銭管理等の報告が適切になされていた。また、「支援相談記録」を確認した。家族への報告等はよく記入されていた。職員の異動は昨年は新規採用をしたが、家族に説明する間もなく退職する状況もあり、事業所も苦慮するところとなっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から指摘のあった事柄には前向きに取り組みがなされており、例えばネームをつけるよう要望があったのでつけるようにするなど、カンファレンス記録で確認できた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近異動を行っていないので、順調である。また、職員間の交流会等でコミュニケーションを図る努力を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「職員研修報告」(外部)20年度には5回参加したことを確認した。また、「職員研修報告」(内部)の実施回数が多かった。仕事を終えた後に行っており、職員も積極的に認知症の実践研修や認知症ケア専門士の資格修得に取り組んでいる。強制ではないが、ほとんどの職員が受けており、終了後は報告書を提出している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回一関市内の同業者と交流しており、年々交流が深まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に面接を行っており、自宅訪問の他、病院も訪問している。また、慣れるまで時間をかけており、必要に応じてご家族に通っていただく場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が畑仕事を利用者教へてもらっており、季節・行事の食事づくりを利用者に教へてもらうなど、日常生活の中で役割のある生活を営んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン、見直し評価表、ケアプランチェック表、施設サービス計画書、私が輝く暮らしのために(介護サービス計画書2)、介護記録が詳細に記録されていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「私が輝く暮らしのために」(介護サービス計画書2)で介護計画を作成している利用者の中に、ハーモニカ、習字、計算ドリルをする人がおり、家族の要望や今までの生活の中の趣味が活かされていた。 ケアプランチェック表(なじみの暮らしの継続)を確認した。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の意向を把握するよう随時話し合いが持たれ、見直しがなされていた。「介護記録」「ケアプランチェック表」を確認した。 また、様々な時間に入浴する利用者への対応について確認した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に合わせて、デイサービスの大浴場や寝たまま入浴できる風呂を使わせてもらっている。ターミナルケアはグループホームの看護師が中心となり行っているが、緊急時はデイサービスの看護師にも応援に来てもらえる体制が整っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「面談調査記録表」を確認した。入居時に既応症の記録をとり、病院を明示している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」を確認した。同意書を全利用者からもらっており、家族や医師と最後の段階まで話を決めている。また、職員は最後まで看取りを行う意識がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「禁句といわれる言葉(マニュアル)」を使用し言葉かけ等に注意している。また、昨年、理念と照らし合わせながら見直しが行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に一緒に行ったり、化粧品、お酒の購入希望に対応している。日常生活の中でも散歩や畑に行きたい時など利用者の意向を尊重した生活が支援されてる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物は週一回ぐらい、または行きたいときに行くようにしている。一緒に買い物に行き、利用者の希望によりメニューをその場で変更することがある。また調理や盛り付けなど利用者が中心となり行えるよう支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助の同性、異性、入浴時間の希望をとっている。利用者個々に入浴の判定基準があり、「入浴介護マニュアル」を確認した。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「24時間生活アセスメントシート」で習慣・好み等の記入を確認した。また、紙すきや民謡・踊り等利用者の趣味や生活歴を把握した支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・畑作りに出かけている。「行事報告書」を確認した。また、実家・嫁ぎ先を訪ねた記録なども確認した。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	6:00～9:00までは施錠していない。日中はチャイムで対応している。現在のところ問題点は無しとのこと。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	グループホーム内で避難訓練を月に1回実施している他、地域の方々と消防署を交えて年に2回、総合防災訓練を実施している。また、チェックリストを作成し、施設内の消火器や換気扇などの確認を月に1回行っている。なお、「地震・火事連絡網」があることを確認した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の利用者がいるため、管理栄養士へ糖尿病食・通常食をFAXし、栄養バランスやカロリーの判定をしてもらっている。(年6回の行事食を含む)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みにより、廊下の作品や雰囲気は異なり、普段の援助内容も利用者の意向に沿った内容となっている様子を感じられる。また廊下からも利用者が育てている野菜や花が見られるよう、中庭に畑や花壇を作り、利用者が常に生活の中で季節感や楽しみが持てるよう支援されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌や籐椅子・小箆箆などが持ち込まれ、畳に布団の生活が希望の利用者は、ベッド利用から布団に変更し、自分で布団を畳んだり生活の一部となっている。		